

1 これまで3年間（H20～22年度）の取組について

1 児童・生徒の状況

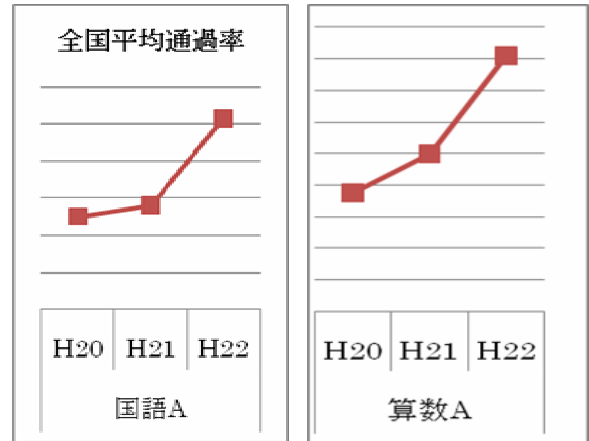
(1) 学習事項の定着（学力）について

（成果）

3年間の全国学テの結果を分析すると、4テストすべてにおいて平均正答率を向上させることができた。特に国語A（基本）算数B（活用）の伸び率が高く、国語辞典の活用や算数の課題解決型の学習等の成果が表れていると考える。また、全国平均通過率が3年間で大きく伸びている。（右表参照）正答率40%以下の児童・生徒の割合も減少しており、放課後や長期休業中の学習教室や複数教員によるきめ細やかな指導による成果であると考ええる。

（課題）

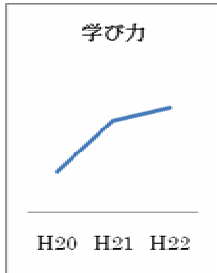
3年間で全国平均通過率が伸び中間層は増加したが、正答率40%以下の児童が約2割いる。また、H22年度算数A（基本）の正答率が前年度に比し落ち込んだ。一人ひとりの児童へ基礎的学習事項の定着を図るために、基礎基本の力を徹底する指導や取組の工夫個に応じたきめこまやかな指導、及び、家庭・地域と連携した総合的な取組を継続的に進める必要がある。



(2) 「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の育成について

（成果）

3年間の全国学力・学習状況調査の結果において、「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」のどの力も伸びている。特に学び力の伸び率が大きい。（左表参照）



各力の次の項目において、特に肯定的な回答が増えている。

「ゆめ力」・・・算数や国語の授業で学習したことは将来社会に出た時に役立つ。

「自分力」・・・学校のきまりを守っている

「つながり力」・・・近所の人に会った時は挨拶している。

「学び力」・・・国語の授業、算数の授業の内容はよくわかる。

これは、人との出会いや体験を大切に学習、聴きあい学びあう授業づくりの研究、サタデートライアル等地域と連携した取組の成果であると考ええる。

（課題）

3年間の全国学力・学習状況調査より、各力において次のような項目において特に課題のあると考える。

「ゆめ力」・・・将来の夢や目標を持っている

「自分力」・・・毎日同じ時刻に起きている

「つながり力」・・・人が困っているときは進んで助けている

「学び力」・・・国語の授業、算数の授業の内容はよくわかる

「学び力」の項目については、上記で述べたように肯定的に回答している児童は年々増加しているが、4割近い児童が否定的回答をしているため課題と捉え、授業の工夫等の取組を進める必要がある。

2 学校の取組

（成果）

学校の組織的な取組については、H21より授業づくり委員会から学力保障委員会と組織の名称変更をし、一人ひとりの児童の学力向上に向けての取組が委員長を中心に進んでいる。週に1回の低中高部会での話し合いをもとに月1回委員会が開かれ、職員会議では委員会での推進内容の報告、提案を行い全教職員共通理解

しながら組織的に取組を進めている。

授業研究を伴う校内研修の充実については、東大教授佐藤学氏を核とした学びの共同体が進める「聴きあい学びあう授業づくり」をテーマに、夏期休業中のビデオ授業研も含め年10回研究授業を実施し授業づくりに対する校内論議を深めている。支援教育、外国語活動の授業研究も講師を招き新しい教育課題についても学ぶ機会を持った。

各学級や教科の授業改善については、電子黒板・実物投影機・大型テレビ等のICTの活用、表現手段としてのホワイトボードの活用、一人ひとりが主体的に参加できるための視覚支援、子どもどうしがつながりあうための班学習、充実した班活動ができるようにするための教材・教具の工夫、課題設定の工夫等に取り組み、日々の授業実践に活かされている。

基礎的学力育成の取組については、基礎となる語彙数を増やすために、毎朝10分間読書、ボランティアによる本の読み聞かせ、付箋を使っての国語辞典の活用に取組んできた。また、放課後や昼休みに「学びルーム」を開設し課題のある児童への計算力、漢字力の育成に取り組んでいる。日本語指導が必要な児童を対象にした放課後学習、長期休暇中の補充学習も行っている。

(課題)

- ・厳しい生活実態を抱える児童が多いなか、一人ひとりの児童の自尊感情を高め、自分自身の将来に展望を持ち夢に向かって学んでいく姿勢を養う必要がある。
- ・算数A(基本)のH22年度正答率が前年度に比し落ち込んだ。基礎基本の力を徹底する指導や取組の工夫が必要である。
- ・「聴きあい学びあう授業づくり」の研究を進め学ぶ喜び楽しみを味わうことはできているが、さらに、授業の中で児童へつきたい力を明確にする研究実践を進めていく必要がある。
- ・日本語指導が必要な児童、支援を必要とする児童の割合が高く、課題のある児童が、日々の授業の中でどのように生き、力を伸ばすことができるか、一人ひとりを大切にしたい授業を作る教員の力量を高める必要がある。

2 これから3年間(H23~25年度)の取組について

1 3年間の重点課題

重点課題	検証軸	25年度の到達目標
授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが聴きあい学びあう授業 ・つながりを高める小グループ活動 ・意欲を高める教材づくり ・多様な考えを出しあえる発問 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回研究授業 ・府及び全国学力学習状況調査 ・学校自己診断 ・生活アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかる」と答える児童の割合：90%以上 ・「授業が楽しい」と答える児童の割合：90%以上
基礎学力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・基本の計算の習熟 ・漢字の読み書きの習熟、活用 ・読書力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・府及び全国学力学習状況調査 ・学校自己診断 ・算数診断テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題、漢字問題の正答率：90%以上 ・年間読書冊数の増加 ・正答率40%以下児童の割合：15%以下
基本的生活習慣の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・早寝、早起き、朝ごはんの習慣 ・家庭学習の定着 ・運動習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・府及び全国学力学習状況調査 ・学校自己診断 ・生活振り返り週間 ・生活アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・「毎日運動をする」と答える児童の割合：90%以上 ・早寝、早起き、朝ごはんの摂取、家庭学習の実施の達成率：90%以上

2 3年間の取組計画

3年間共通の計画		年度ごとの計画	
授業づくり ・個人の授業づくりにおける目標の明確化。 ・全教員による研究授業の実施。 国語力の育成 ・読書量をあげる（朝の一斉読書、読書週間の実施、朝日新聞社読書百冊の取組） ・辞書を活用し語彙力を伸ばす ・書く力をつける取組（生活作文、日記、読書感想文） ・詩の暗誦冊子の取組 基礎基本の学習の定着 ・補充のサポート体制づくり（放課後、長期休業中、地域との連携） 基本的な生活習慣の確立 ・連絡帳保護者のサインの徹底 ・生活振り返り週間の実施 ・家庭学習の手引書作成 体力向上の取組 ・マラソン大会、マラソン週間の実施 ・なわとび週間の実施 ・体育の授業研究	平成23年度	・全教員による研究授業 ・辞書の活用 ・朝読 ・読書週間 ・読書百冊の取組 ・詩の暗唱冊子 ・一行日記 ・放課後学習5, 6年 ・生活振り返り週間 ・連絡帳保護者サインの徹底 ・マラソン週間、マラソン大会	
	平成24年度	・全教員による研究授業 ・辞書の活用 ・朝読 ・読書週間 ・一行日記 ・詩の暗唱冊子 ・生活作文 ・放課後学習4, 5, 6年 ・生活振り返り週間 ・連絡帳保護者サインの徹底 ・なわとび週間、なわとび大会	
	平成25年度	・全教員による研究授業 ・辞書の活用 ・朝読 ・読書週間 ・一行日記 ・詩の暗唱冊子・読書感想文 ・放課後学習4, 5, 6年 ・生活振り返り週間 ・連絡帳保護者サインの徹底 ・なわとび週間、なわとび大会 ・体育授業研究	

3 推進体制

